

第4回 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 議事概要

1. 日 時：令和4年12月22日(木) 14:00～15:15

2. 開催方式：WEB 会議方式

3. 出席者：伊藤委員(座長)、橋村委員、山口委員、関根委員、荻原委員、田中委員、根本委員、柳川委員(代理：中村オブザーバー)、古川委員、清水委員

4. 議事(概要)

【主なご意見・ご質問】

議題1 使用過程のホイール・ボルト、ナットの性能確認実験結果について

今回の試験結果において、清掃・給脂後の軸力が130kNになっているが軸力が不足していると考えられるのか。

新品のホイール・ナットを規定トルクで締め付けると200kN程度の軸力になると認識しており、少なくともその状態よりは低下しているが、軸力が不足しているかどうかは一概には言えないと考えている。(事務局)

○ 議題2における試験では、走行前の初期締め付け軸力が30kN程度の場合に軸力が急激に低下した。

○ 給脂の際にエンジンオイル等を塗りすぎると不具合等はあるのか。

○ ホイール・ナットとワッシャの間に塗っている分には問題ないが、ディスクホイールとワッシャの当たり面に付着すると支障がある。

議題2 大型貨物自動車を用いた走行実証実験結果について

特になし

議題3 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 中間とりまとめ(案)について

○ 大型車の車輪脱落事故防止キャンペーンの継続実施とあるが、ホイール・ナットの無償交換は今後も継続するのか。また、継続して実施する場合は、現場への周知のため一か月はリードタイムをいただきたい。

○ 毎年同じことを繰り返すというよりは、事故の発生状況を踏まえたキャンペーンとすることが望ましいと考えている。今年度実施した対策の効果等を踏まえて検討していきたい。(事務局)

○ 今回の中間とりまとめについては適切にまとめられていると思う。一方で、左後輪のタイヤの脱落が多い原因は引き続き調査が必要と考える。また、事故車両調査において摩耗等が確認されたことから、一つの事実として過酷な環境下で車両が使用されているということかと思うので、使用者にはしっかり認識してもらいつつ、ホイール・ナットを交換する際の使用者にもわかりやすいような摩耗の目安等を検討する必要があるかもしれない。